会頭講演

「順天応人 ー東方医学×公衆衛生学ー」

順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座 客員准教授 友岡 清秀

第43回日本東方医学会では、私自身のバックグラウンドである東方医学と公衆衛生学の融合を目指し、「順天応人 ー東方医学×公衆衛生学ー」をテーマとさせていただきました。

「東方医学と公衆衛生学はどのような関係があるのだろうか？」と考える方は少なくはないと思いますが、これらにはとても親和性があります。公衆衛生学とは、社会全体の組織的な努力により、人々の健康を維持・増進し、疾病を予防することを目的とし、病をもつ人だけではなく、それを取り巻く社会環境に働きかける学問分野です。そして、この様な公衆衛生学の考え方は、東方医学の中にも見ることができます。例えば、漢方や鍼灸では、養生（≡健康増進）や治未病（≡疾病予防）は最も重要な概念であり、そして「上医医国、中医医人、下医医病」という言葉が示すように、良い医師とは病気や患者個人のみならず、国という社会全体を医するものであると考えられています。さらに、東方医学では「天人合一思想」のように、自然界（大宇宙）と人体（小宇宙）は一体で相互に密接な関係を持つと考えられ、人体の生理現象を自然の原理と結びつけ、自然に即した生き方を重視します。近年、公衆衛生学分野でも、Planetary Health という概念のように、人間の健康と地球環境の調和の重要性が見直されつつあります。

本大会では、東方医学と公衆衛生学を結びつける言葉として、「順天応人(天に順い、人に応じる)」をメインテーマとしました。これは易経に由来する言葉で、澤火革の象伝(たんでん)において「天地革(あらた)まって四時成り、湯武命を革めて、天に順(したが)い人に応ず。革(かく)の時大いなるかな。」と述べられています。革命には大義名分が必要であり、天の意思(自然の摂理)に順い、人々の願いに応えるような革命は偉大なものであるということを意味しています。

順天応人という言葉キーワードにして、より豊かで、より健やかな社会の実現のために、東方医学をどのようにして現在、そして未来の社会に実装するか、皆さんと共に考えたいと思います。